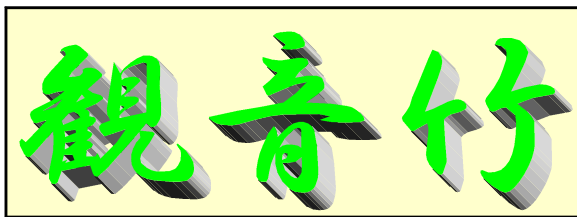


【学校教育目標：自他を大切にし、自律できる八幡小の子どもを育てる】



2月の目標

生活：寒さに負けず、健康にすごそう  
保健：かぜ・インフルエンザの予防に努めよう  
安全：校外での安全に心がけよう

令和4年度 2月号  
R5. 2. 3発行

<http://eshachiman.synapse-blog.jp/hachimanes/>

## 身のまわりにある「学び」

学校で学ぶ教科。その内容をよく見てみると、実は…多くのものが身のまわりにあふれています。授業は、実際の生活と教科で学ぶ内容をつなぐ役目を果たしています。

例えば、車のスピードメーターの「km/h」これを見て何を想像されますか。算数で「速さ」の問題そのものです。

道のり÷時間＝速さ 「km：長さ」を「h：時間」（※h…hour）で割って、速度を求めることを表しています。車で目的地に向かう時、速度を上げると早く着くのか遅く着くのか…。おそらく「速さ」の学習をしていなくても簡単に想像できると思います。ところが教科の中で学ぶ時、とても難しく考えてしまいます。逆に、算数で「速さ」を学習した後に、「km/h」を車の中で見つけられたら、「あっ！！」と思うのではないのでしょうか。生活の中で復習ができてしまいます。

また、なぜ教科を学ぶのか。その教科の内容も重要だと思いますが、それ以上にその教科の学び方や考え方、思考する方法が生きる力になると考えています。例えば、算数で分からない問題や初めて出会う問題に対してどうするか。

① 今まで学んだことを思い出し使える考え方はないか。

② 自分が考えたことや想いを周りの友達と伝え合う。

③ 納得できたことを別のグループの友達に伝える。

このようなことを繰り返し、分からない問題や初めて出会う問題に取り組んでいきます。この①～③のような思考のサイクルは、算数だけでなく、身のまわりで起きる出来事や問題に対応する時と同じプロセスではないのでしょうか。国語では、自分の知っている言葉を最大限に使って、自分の想いを相手に伝えるように思考していきます。伝えるのではなく、伝えるように工夫します。道徳では、友達のいろいろな考えを聴き、考え、議論してきます。その中で自分自身の中に湧いてくる考えと向き合い振り返るのです。

このように、学校で学ぶ教科は、その教科の内容だけでなく、学ぶプロセスそのものが生きる力につながっていくことが分かります。このプロセスに大切なのは、「まわり」なのです。それも自分とは異なる存在、友達だけでなく先生たちを含めた環境です。自分とは異なる存在を尊重し、まわりの考えを聴き、思考する。そして、まわりに伝え、振り返る。集団だから育つ力です。八幡小学校は少人数ですが、校区も含めて多様性があり、それを受け止める風土をもっています。ここまで書いてきた「生きる力」が大いに育つ校区・学校だと自信をもって言うことができます。地域・家庭・学校…少し離れて見てみると、同じようなことがたくさんあるのかもしれない。

### <ご協力ありがとうございました>

今年度も学校協力券付きのスクラッチカード収集へのご協力ありがとうございました。有意義に使わせていただきます。ありがとうございました。